

## “男女共同参画フェア”に参加して



小山市制 65 周年を祝う令和最初の小山市男女共同参画フェアが 6 月 22 日（土）に梅雨空の中、小山市立文化センター小ホールで開催されました。

オープニングは、雨の湿気も吹き飛ばすような白鷗大学ハンドベルクワイアのさわやかな演奏でした。

今年は 16 社がワーク・ライフ・バランス推進事業者認定証交付式で認定証を交付されました。そのあと

新しい試みで小山市の男性職員による育児休業体験発表がありました。彼はお子さんが生まれるとき、妻がいわゆる「ワンオペ育児」をする環境にあったため、9カ月の育児休暇を取りました。今は保育園の送迎のために時短出退勤をしています。そのため夫婦ともお子さんの成長を身近に感じ、産後ストレスもないと話しました。

次に、小山評定ふるさと大使でヴァイオリニストの上保朋子氏の「笑いと愛と音楽」と題した基調講演がありました。マツコ・デラックス氏と対談したこともある WAO 弦楽四重奏団の第一ヴァイオリン奏者です。WAO は「W（笑い）と A（愛）と O（音楽）」という意味で名付けられたそうです。

両親のプロの道に進んでほしいという中で、4 歳からピアノとヴァイオリンを習い、親が車を運転し富山県から東京都までレッスンに通いました。練習漬けが嫌になり自由になると、やるこたがなくなり、「自分からヴァイオリンを取ると何も無い」と思い、更に精進しました。桐朋高校と大学に通い、卒業してからは、オーケストラのメンバーになる試験を受けたり、アルバイトで様々な BGM を弾いていました。25 歳の時にヴェートーベンの弦楽四重奏曲を通して「自分は演奏家として生きたい」と決めました。

2014 年に小山市に越してきて、夫である生沼氏と一緒に小山市の妙建寺でのチャリティーコンサートなどに協力してきました。話の間にすばらしいヴァイオリンの演奏を 3 度も聞かせてくださり、美しい音色に会場中が酔いしれました。最後に小山の子どものために音楽を楽しむ環境を作るための努力をしたいという言葉をいただきました。

最後は「女性が社会で活躍するためには」というテーマのパネルディスカッションを、(株)フェードインの工藤さんの進行で行われました。パネリストの女性たちの様々な経験の話は大いに参考になったのではないのでしょうか。その時その時をしっかりと生きること・経験を踏まえ長い目で見る事が大切・一人ひとりの強みを生かし自分らしく活躍の場を作る・個々の状況を見ながら対応していくなど、なるほどと感じ入りました。「女性活躍」が死語になる社会をとということが特に印象に残りました。

